

地域においてリーダーシップを発揮できる生徒の育成

—中高連携清掃活動とジュニアインターンシップの実践を通して—

愛知県立尾西高等学校 教諭 美山雄一

1 はじめに

高校生の進路選択が小学校・中学校の進路選択と大きく違うところは、進学・就職のどちらについても、進路先が多様性に富むことにある。高校卒業後の多様な就職先では、どこにおいても社会人としての自立や判断が求められ、直面するであろうさまざまな課題に柔軟にかつたくましく対応する必要がある。しかし、社会環境の変化に加え産業の構造的変化や雇用形態の多様化・流動化など、今日の社会は不安定な要因があふれている。そのような社会の激しい変化の中で、子どもたちが描く大人のモデルはもはや一様ではなくなっており、キャリア教育に求められる内容も単純に職業観・勤労観の育成だけにとどまらない。

また、近年の子どもたちの心身の発達は、身体的な発達に比べて精神的・社会的側面の発達が伴っていないことが指摘されている。具体的には人間関係をうまく構築できない、意思決定が自分でできない、自己有用感をもてない、将来に希望をもっていないなどといったことが挙げられる。

このような社会の中で、子どもたちが希望をもって自立的に自分の未来を切り拓くために、基調提案 p.3【資料4】のような基礎的・汎用的能力が示された。また、平成 23 年 11 月に文部科学省から出された「高等学校キャリア教育の手引き」では、学科の特質に応じた育成の視点の一例が示された。【資料1】は、高等学校普通科における視点の一例である。

【資料1 高等学校普通科における育成の視点の一例】

人間関係形成・社会形成能力	ホームルームでの話し合い活動などを通じて、相互理解を図るとともに、協力して物事に取り組む意識・態度を養う。
自己理解・自己管理能力	社会人講話や就業体験などの啓発的な体験を通じて、自己の適性等を知り、主体的に行動し、自ら進んで学ぼうとする力を育成する。
課題対応能力	具体的な課題を設定して行うディベートなどの学習を通じて、課題の本質を理解し、その課題を解決することができる力を育成する。
キャリアプランニング能力	「大学の向こうにある社会」を認識し、将来の職業を意識して、計画的・主体的に学ぶ意欲や態度を育成する。

本校は愛知県西部に位置し、木曾川の東岸の田園地帯にあり、都会の喧騒^{けんそう}から離れ、落ち着いた環境にある普通科高校である。また、少人数教育を行い、校訓「真摯」の下に、生徒一人一人に対してきめ細やかな指導を目指している。平成 21 年度には情報活用コースを新設し、多様な進路先に対応したカリキュラムを特徴としている。

中学校までの過程において、職場見学だけでなく、半日日程の職場体験にも取り組んでいる。しかし、生徒は、勤労体験よりも、仕事の様子を見学したり事業所の方から仕事の内容を聞いたりする場面が多く、働くことの意義の理解にまでは至っていない生徒が多い。そのため、職業観も自分の価値観の域を超えず、現実との乖離^{かいり}が大きい。さらに、本校入学前に、学級委員長や班長などの役職を経験した生徒は少なく、仲間うちでもリーダーシップを発揮し、適切な指示を出すことにあまり慣れて

いない。そのため、自分の仕事や役割に責任をもって取り組んだ経験を積んでいない生徒が少なくな

い。しかし、高等学校入学後は、学級の中心的役割をこなし、さまざまな集団活動の中でリーダーシップを発揮する必要に迫られる場面が多くなる。また、近年の本校はボランティア活動で地域貢献を果たす機会が多くあり、生徒は自己の行動が評価に結び付くことも体感しつつある。このことが社会への関心を生み、インターンシップに参加する生徒の増加に結び付くなどといった好循環も生じてきている。

これを機に、地域の人との協力を得て行う活動や振り返りの授業を通じて、日常生活における多様な役割とその責任や地域に生きる一員として奉仕することの意義について理解させたい。事前指導としては、起こり得る課題を予想して臨むことを心がけさせ、事後指導としては、情報共有のための発表会や振り返りの授業から改善点を模索させる。それを通し、リーダーシップを発揮し、プレゼンテーション能力や改善する力のある生徒を育成することを目的として、本研究を進めることにした。

高等学校の総合的な学習の時間におけるキャリア教育の実践の目標として、1年次には清掃活動に焦点を当て、リーダーシップの育成や地域の一員としての自覚を促すことにした。2年次にはジュニアインターンシップに焦点を当て、視野を広げ仕事に対する考えの幅をもたせることを目指した。各学年での焦点は異なるが、共通点を意識しながら3年間を通じてのキャリア教育の在り方を探っていく。

2 研究の仮説

- (1) 授業や活動の場面において、生徒同士の関わり合いの仕方やお互いの行動や取組について振り返る方法を工夫したり地域の人々と連携活動の充実を図ったりすることによって、自分の考えを深めさせ、相手に応じた接し方を心がけたり、リーダーシップを発揮したりする力を高めるきっかけになるであろう。
- (2) 地域の人々の役に立つことの必要性を実感できる授業、活動等を意図的に組むことにより、日常生活や社会における多様な役割とその責任や地域に生きる一員として奉仕することの意義を理解し、自己の果たすべき役割についての認識を高める生徒を育成できるであろう。

3 実践の方法

研究の仮説を検証するため、以下のような方法で研究を行うことにした。

(1) 授業における関わり合いの仕方に関する工夫の手だて

ア 数名のグループ単位で行う活動の場を継続して設定する。…**手だてA**

イ 話し合いが円滑に進むような支援の仕方を工夫する。

(ア) 話し合いの際に用いる教材・教具を工夫する。

・発表内容について他者に明確に伝えることができるようにするため、項目ごとに分類して記入できるようなプリントを用意する。…**手だてB**

・自分の活動の様子の振り返り内容を記録できる付箋紙と、それを貼るためのA3プリントを用意し、グループ全体としてまとめた内容がひと目で分かるように支援する。

…**手だてC**

(イ) グループとしてまとめた内容を授業の後半で発表するという目的意識をもたせた上で、話

し合いに取り組ませる。…**手だてD**

(2) 地域の人々との連携活動の充実を図るための手だて

ア 下級生や地域の人々と活動する機会を設定する。…**手だてE**

イ 活動計画や振り返りの段階において、下級生や地域の人々との接し方について考える場を設定する。…**手だてF**

(3) 人の役に立つことの必要性を実感できる授業、活動等を意図的に組むための手だて

ア 活動について振り返る学習を積極的に授業に取り入れ、展開の仕方を工夫する。

(ア) 個人で振り返った内容をグループで共有する場を設定する。…**手だてG**

(イ) 共有したことを基に全体で振り返らせ、高校生または各係分担としての役割について再度個人で見直したり今後の生活に生かす方法を考えたりする場を設定する。…**手だてH**

イ 地域の職場や住民が利用する施設で働く体験を通し、地域の一員であるという自覚をもつことのできる授業や活動を計画する。…**手だてI**

4 実践の内容

(1) 平成 23 年度の実践内容

ア 単元 1年 総合的な学習の時間「中高連携清掃活動」（5時間完了）

イ 単元設定の理由

本校では、毎年、近隣中学校の生徒や地域の方々と合同で清掃活動を行っている。中学生と一緒にグループを組み地域清掃に取り組む活動を通じ、責任をもって自分たちのすべき役割を果たすことにより、周囲の人たちによって自己の存在を認められ、お互いに支え合って社会生活を営む意義を実感することができるようになることを目指している。しかし、集団で一つの作業をやり遂げた経験に乏しく、果たすべき役割を十分にこなしているとは感じ取れない。

そこで、役割を果たすために、事前学習の段階において、中学生との接し方、ごみの集め方、役割分担の仕方等について、どのようなことが起こり得るかを想定したり、その課題に対する適切な対処の仕方について予測したりする場を設定する。それによって、自信をもって中学生と連携しながら清掃活動を行うことができるようにしていきたい。

また、振り返り学習の段階においては、清掃活動のグループの生徒同士で、実際に生じた課題を出し合い、その対処の仕方について共有し合う場を設定する。それによって、お互いの思いを理解しながら自己有用感を高めると同時に、事前学習とのギャップを感じながら次の清掃活動に生かそうとする意識を高めたい。

ウ 単元目標

(ア) 清掃活動場面で予想される課題を事前に出し合ったり、今後の活動につなげたいこと（続けたい点、改善したい点）を考えながら清掃活動を振り返ったりすることができる。

(イ) (ア)の課題と清掃活動場面で実際に起きた課題とのギャップを検討し、振り返り学習の際にどのような対処が適切であったかを模索することができる。

(ウ) 清掃活動場面で起こり得る課題を予想することにより、清掃活動時に生じた課題に対応する際の見通しをもつことができる。

(エ) 中学生に清掃の仕方について話したり、事前学習や振り返り学習の中で他者とのコミュニケーションの取り方を具体的に学んだりして、人間関係形成能力を身に付けることができる。

エ 単元構想（【資料2】【資料3】参照）

第1時	勤労活動で校内と一部校外の清掃活動を実施し、概要をつかむ。
第2時	勤労活動での課題の整理，中高連携清掃活動に向けて問題の予想などのグループワークを行う。
第3時	勤労体験時の経験を基に，中学生との合同清掃を実施する。
第4時	中高連携清掃活動を終えて，発生した問題の反省，気付きなどをグループで討議する。
第5時	中高連携清掃活動を踏まえた上で，より高レベルな勤労活動を実施する。

【資料2 第3時の指導計画（中高連携清掃活動）】

学習活動	時間	指導上の留意事項
1 前時までの学習内容を振り返り，本時の学習内容を把握する。 (1) 勤労活動を通じて感じたことを確認する。 ・ごみが必要以上に多い。 ・ポイ捨てがある。 ・過剰包装ではないか。 (2) グループ内での役割，コミュニケーションのとり方を確認する。 ・自分の役割の再確認。 ・中学生への声のかけ方，言葉遣い。 (3) 説明を聞き，準備する。 ・活動場所の説明を聞く。 ・中学生と顔合わせをする。 ・用具の準備，活動場所へ移動する。	10	第2時に班分けを実施 (1班6名で構成し，本時は班長・ごみ収集係・アンケート係を中心とする) (班長が中心になって行うように支援する) ・清掃に取り組む意欲を高める。 ・周囲の人たちに迷惑になるような行為をしないように指導する。 ・なるべくごみを出さない工夫を考えさせる。 ・自分の役割だけでなくグループの他の人の役割も知っておくように働きかける。 ・中学生に対し丁寧に優しい言葉遣いをさせる。 ・高校生から率先して中学生に声を掛けさせる。 ・活動場所に着いたらすぐ開始させる。
2 実際に清掃活動をする。 (1) 活動を通じて問題点を発見する。 ・ごみが多い，またはほとんどない。 ・グループとしてまとまりがない。 (2) 中学生への声掛けをする。 ・丁寧な言葉遣いをしているか。 ・ひとりになっている中学生はいないか。 ・中学生だけになっていないか。 (3) 地域の方々へ適切な対応をする。 ・挨拶をしているか。 ・交通の妨げになってはいないか。	40	(班長が中心になって行うように支援する) ・中学生と高校生が離れ過ぎないようにお互いに声を掛け合わせる。 ・声掛けだけでなく，中学生に寄り添って一緒に活動させる。 評 清掃活動を通して「課題対応能力（課題発見）」を評価する。… 手だてH ・近寄りやすいイメージを中学生がもたないように留意させる。 ・明るくはきはきした印象を与えるように支援する。 ・高校生同士で常に目を配らせる。 評 中学生への声かけを通して「人間関係形成・社会形成能力（他者に働きかける力）」を評価する。… 手だてA・E ・明るくはきはきした印象を与えるように支援する。 ・車などの交通に対して班長が声掛けや気配りを促す。
3 ごみ集積・解散式・アンケートを実施する。 (1) ごみ集積や整列の指示をする。 ・ごみ集積所にごみが散乱していないか。 ・整列する場所や方法についての確な指示をしているか。		(ごみ収集係が中心になって行うように支援する) ・班長には，高校生・中学生へ適切な指示を出すように助言する。 ・班長以外の高校生には，整列の指示などをするように助言する。 評 清掃活動後の指示を通して「人間関係形成・社会形成

<p>(2) 中学生にアンケート実施するように指示する。</p>	47	<p>能力（リーダーシップ）」を評価する。 …手だてA・E・I</p> <p>(アンケート係が中心になって行うように支援する) ・質問に答えられるように、中学生の近くに待機させる。</p>
<p>4 本時のまとめをする。 ○(学校帰着後に)アンケートを実施することを聞く。</p>	50	<p>・今日できたこと、できなかったことを洗い出し、次回の勤労体験に向けての改善点をまとめさせる。 ・リーダーシップに関する考察を深め、今後の自らの行動の指針として活用できるように、それぞれに自己課題を求め、オープンエンドの形とさせる。</p>

【資料3 第4時の指導計画（清掃活動反省会）】

学習活動	時間	指導上の留意事項
<p>1 本時の学習課題を把握する。 清掃活動の反省会をしよう。</p>	2	<p>○第2時にグループ分けを実施 (1グループ6名で構成し、本時は進行係・書記係・発表係を中心とする) ○個人用反省プリント、中学生へのアンケートのまとめ、付箋紙を各自に配布する。 ○個人用反省会プリント「自己の反省」まで事前に記入させておく。</p>
<p>2 前時の清掃活動について自分なりに振り返る。 (1) 自分が特にできたことを1つ選んで付箋紙(青)に書き記す。 (2) できなかったことについて、どのように改善したらよいか考えて、プリントに書き記す。 (3) プリントに記した改善点の中から特に改善したいものを1つ選んで付箋紙(ピンク)に書き記す。</p>	10	<p>○付箋紙(青)に書く内容は、事前に記入済みの個人用反省会プリントを参照にする。 ○改善点を書かせる場合は、中学生へのアンケート結果や、事前に記入済みである「予想よりよかったところ、よくなかったところ」も参考にして書かせる。 ○早く書けた生徒には、できたこと、改善点、それぞれ2つ以上付箋紙に書かせる。 ○反省内容の例 ・清掃を積極的に遂行したか。 ・高校生だけまたは中学生だけで固まって清掃していなかったか。 ・中学生に対し丁寧で優しい言葉遣いができたか。 ・高校生から率先して中学生に声を掛けることができたか。</p> <p>評自己の振り返りを通して「自己理解・自己管理能力(自己の役割の理解)」「課題対応能力(原因の追究)」を評価する。 …手だてC・G</p>
<p>3 自分なりに振り返ったことを基に、グループに分かれて反省会を実施する。 (1) 付箋紙に書いたことを発表する。 ・自分の役割の遂行状況 ・中学生への指示、声掛け、支援 (2) 発表したら付箋紙を書記用A3プリントに貼る。 (3) 書記用A3プリントを基に、改善点を集約する。</p>	20	<p>(進行係が反省会を取り仕切り、書記は意見を集約する) ○反省会が停滞してしまったら以下のようなことを示唆する。 ○話をするのが苦手な生徒を見たら、進行係に「できたことは」「改善点は」「自分の役割は」「中学生への声のかけ方は」等の言葉を用いて尋ねるように助言し、話し合いがスムーズにできるように支援する。 ○書記に「反省会発表レジュメ」を配布し、集約したことを記録させる。 ○改善点の例 ・中学生が分かりやすく活動できる工夫があったのではないか。 ・今回は持参しなかったが、必要な道具があったのではないか。</p>
<p>(4) グループごとの発表に向けて準備をする。 ○集約したことを伝える練習をする。</p>	33	<p>○準備の留意点 ・脈絡のない発表になっていないか。 評グループ活動を通して「人間関係形成・社会形成能力(他者の個性を理解する力、他者に働きかける力)」「課題対応能力(課題発見)」を評価する。 …手だてA・C・D・F・G</p>

<p>4 反省会でまとめたことを発表する。 (1) まとめたことを発表する。 (2) 他のグループの発表を聞いて気付いたことを個人用反省会プリントに記入する。</p>	45	<p>(発表係が担当する) ○発表の留意点 ・大きな声ではっきりした口調で発表する。 ・前のグループと重複しない部分を発表する。 <u>評</u>全体での振り返りを通して「人間関係形成・社会形成能力(他者の個性を理解する力)」「キャリアプランニング能力(学ぶこと・働くことの意義や役割の理解)」を評価する。 …手だてF・H</p>
<p>5 本時のまとめをする。 ○今日の発見を洗い出し、次回の勤労体験に向けての改善点を確認する。</p>	50	<p>○リーダーシップに関する考察を深め、今後の自らの行動の指針として活用できるよう、それぞれに自己課題を求め、オープンエンドの形とさせる。 <u>評</u>まとめを通して「キャリアプランニング能力(将来設計)」を評価する。 …手だてH</p>

(2) 平成 24 年度の実践内容

ア 単元 2年 総合的な学習の時間「ジュニアインターンシップ」(7時間完了)

イ 単元設定の理由

本校では、毎年、キャリア教育推進事業に則って地域の企業の協力を得ながらジュニアインターンシップを行っている。ジュニアインターンシップとは、事業所、ハローワークの協力を得ながら、中学生、高校生を対象とした就業体験実習である。そして、教室で学ぶことができない実社会の現場などで、地域の産業・職業事情を知ったり体験したりすることにより、自らの適性と職業の関わりを考える契機とすることをねらいとする活動である。それによって、実際の社会で働く人たちと同じ場所で同じ作業をこなし、自ら手がけたものが世に出ていくということを体験し、社会的な責任を実感することができるようになることを目指している。また、働くことの大変さと有意義さ、働くことを通じて自己有用感を認識させるだけでなく、大人社会との関わり方を学ぶことにも重点を置いている。昨年からのさまざまな奉仕活動や、清掃活動などを通じて自分から進んでこなしていく能力が身に付きつつあるので、本年度はより踏み込んだ経験と学びを念頭に置いている。

そこで、事前学習の段階において、電話での連絡のとり方、訪問時のマナーを確認し、反復練習することによって適切な対処の仕方について予測したりする場を設定する。実際の活動で終わりではなく事後学習として、ジュニアインターンシップに参加していない生徒への情報共有の場としてプレゼンテーション形式の報告会を行い、それによって他者に働きかける力を育成したい。さらに、振り返り学習の段階においては、経験の違うさまざまな生徒でグループを組み、報告会の際に生じた課題を出し合い、その対処の仕方について共有し合う場を設定する。そして、他学年への発表の場を用意し、それに向けて発表方法を見直させることによって、活動、振り返り、共有、改善を繰り返した学びをしながら成長できるようにしていきたい。

ウ 単元の目標

- (ア) 事前学習の際に、ジュニアインターンシップを行うにあたって、予想される課題を出し合ったり、練習を繰り返したりしながら、大人社会への認識を深めることができる。
- (イ) 報告会で実際に起きた課題を検討し、振り返り学習の際にどのような手だてが適切であったかを模索することができる。
- (ウ) 事前学習や振り返り学習の中で他者とのコミュニケーションの取り方を具体的に学び、人間関係形成能力を身に付けることができる。

エ 単元構想 (【資料4】【資料5】参照)

第1時 2年生全員へのインターンシップ説明会を通して、働くことへの意識をもつ。

- 第2時 将来働く上で不安に思っていることを出し合い、意見を共有し合うことによって、働くことへの問題意識をもつ。
- 第3時 インターンシップ報告会を行い、インターンシップに行っていない生徒へ情報を提供する。
- 第4時 報告会の振り返りを行い、1年生対象の報告会への構想を練る。
- 第5時 1年生対象の報告会のリハーサルを行う。
- 第6時 1年生対象の報告会を行う。
- 第7時 1年生対象の報告会の振り返りを行い、勤労体験への見通しをもつ。

【資料4 第3時の指導計画（ジュニアインターンシップ）】

学習活動	時間	指導上の留意事項
<p>1 本時の学習課題を把握する。 インターンシップの報告会を通して情報を共有しよう。</p> <p>2 前時までの活動について振り返る。</p> <p>(1) 6月のインターンシップ説明会</p> <p>(2) 事前指導・インターンシップノート（準備）の記入</p> <p>(3) 事業所との電話打合せ</p> <p>(4) 実際のインターンシップ</p> <p>(5) 実習日誌の提出・事後指導・インターンシップノート（振り返り）の記入</p> <p>(6) 事業所へお礼状と感想文の作成</p> <p>3 プレゼンテーションソフトを使用して、役割ごとに報告会を実施する。</p> <p>(1) 事前指導・事業所との打合せ・事後指導・お礼状の作成について、報告を行う。</p> <p>(2) インターンシップの報告を行う。 (7グループ)</p> <p>ア 株式会社 ケーエスディー イ 株式会社 ギャラック ウ 有限会社 菱甲園 エ 医療法人 泰玄会 オ 松寿司 カ 茶久染色 株式会社 キ 株式会社 なかてつ</p>	<p>2</p> <p>8</p>	<p>○第2時終了後に各自でインターンシップノート（振り返り）に取り組みしておく。</p> <p>○インターンシップ後に作文を書かせる。</p> <p>○プレゼンテーションソフトとプロジェクターを準備しておく。</p> <p>○事業所アンケートのまとめを教員が実施する。</p> <p>○個人用報告会ワークシートと事業所へのアンケートのまとめを各自に配布する。</p> <p>○「就職活動」がスタートしたことを認識させ、早く動き始めることを促した。</p> <p>○インターンシップを希望した生徒に対し「働く」ことの心構えを付けさせた。</p> <p>○失礼のない大人への対応を指導してから教員立会いの下で電話をさせた。</p> <p>○初日は教員が事業所に出向いてある程度軌道に乗るまで見守った。</p> <p>○提出物の内容の指導と報告会に向けての役割分担及びそれぞれの指導をした。</p> <p>○大人社会で通用する「礼状の書き方」に基づいて指導した。</p> <p>○プレゼンテーションソフト係に準備させる。</p> <p>○2年生就職希望者に個人用報告会ワークシートに「自分が勉強になったこと」と「もう少し発表の仕方を工夫するとよかったこと」を記入させる。</p> <p>○以下のような視点をもたせて実施したことの報告をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人社会の常識 ・失礼のない言葉遣いや服装、動き ・活動前と後での認識の違い ・大人の方と一緒に仕事をしてみて感じたこと ・インターンシップ実施前に想像した仕事内容と実施後に実感した仕事内容との違い ・「学校」と「会社」の違い <p>評報告会の発表を通して「人間関係形成能力（他者に働きかける力）」を評価する。…手だてA</p> <p>評報告会のワークシート記入を通して「キャリアプランニング能力（学ぶこと・働くことの意義や役割の理</p>

<p>4 巡回の先生からの話。 ○ 総合的に「働く」ということについて考えたことを発表する。</p>	40	<p>解)」「課題対応能力(情報の理解・選択・処理)」を評価する。…手だてF・H・I</p> <p>・巡回は、尾中地区のキャリア拠点校の教諭が実施している。 ・自分たちが感じていたこととかけ離れている点、自分たちが見落としていた視点について考えさせる。</p>
<p>5 本時のまとめをする。</p>	45	<p>○以下のような観点で今日の発見を洗い出させる。 ・2年生就職希望者がイメージすることができたか。 ・1年生対象の報告会に向けて改善すべき点は何か。</p>
	50	

【資料5 第4時の指導計画(ジュニアインターンシップ)】

学習活動	時間	指導上の留意事項
<p>1 前時までの活動を振り返り、本時の学習課題を把握する。 ○ インターンシップ報告会の振り返りを通して1年生対象の報告会の方向性を模索しよう。</p>	5	<p>○前時に用いた報告会プリントを参照し、個人用反省会プリントに事前に取り組みしておく。 ○前時には、パワーポイントを使用し、インターンシップに行っていない生徒への報告会を行ったことを想起させる。 ○振り返りの前にグループで書記・発表の係を決めておく。</p>
<p>2 前時のインターンシップ報告会について報告側(参加者)の振り返りをする。 (1) 自分が特にできたことを1つ選んで付箋紙(青)に書き記す。 (2) 自分が特にできなかったことを1つ選んで付箋紙(ピンク)に書き記す。</p>	15	<p>○2・3・4についてはグループ別で活動に取り組みさせる。 ○2・3については、書記係がグループごとに配布された書記用プリント(A3)に付箋紙を貼っていき、ひと目で分かるように指示する。 ○2のときの書記はインターンシップ非参加生徒が行い、3のときの書記はインターンシップ参加生徒が行うように指示する。 評自己の振り返りを通して、「自己理解・自己管理能力(自己の役割の理解)」を評価する。…手だてC</p>
<p>3 前時のインターンシップ報告会について非報告側(非参加者)の振り返りをする。 (1) 発表の中でよかったことを1つ選んで付箋紙(青)に書き記す。 (2) 発表の中で改善すべきことを付箋紙(ピンク)に書き記す。</p>	25	<p>○参加者と非参加者(2・3)を1つのグループにして話し合わせる。 評報告を聞いた感想を伝える活動を通して、「人間関係形成能力(他者の個性を理解する力)」を評価する。…手だてA・C・D・F・G</p>
<p>4 1年生対象の報告会に向けて、留意点や付け加え・削除すべきところを相談する。 ○書記用プリントに書き記す。</p>	35	<p>○発表係は5の発表の準備をする。 ・限られた時間の中での発表なので、内容を厳選する。 評書記用プリントをまとめる活動を通して「人間関係形成・社会形成能力(他者に働きかける力)」「課題対応能力(情報の理解・選択・処理)」を評価する。…手だてA・C・D・F・G</p>
<p>5 反省会でまとめたことを発表する。 (1) まとめたことを発表する。 (2) 他のグループの発表を聞いて気付いたことを個人用反省会プリントに記入する。</p>	48	<p>○グループごとに全員の前で発表する。 ○教員は発表内容を必要に応じて板書していく。 ○よい気付きをした生徒を指名し、発表させる。 評全体での反省会を通して、「人間関係形成・社会形成能力(他者の個性を理解する力)」「キャリアプランニング能力(学ぶこと・働くことの意義や役割の理解)」を評価する。…手だてF・H</p>
<p>6 本時のまとめをする。</p>	50	<p>○以下のような観点で今日の発見を洗い出す。 ・1年生にとって有意義な報告会になるための気付きがあったか。 ○勤労体験につなげる。 評まとめを通して、「キャリアプランニング能力(将来設計)」を評価する。…手だてH</p>

5 実践の実際と考察

(1) 平成 23 年度の実践と考察

ア 異校種合同で行う地域での活動…**手だて E・I**

校外での清掃活動は 3 回行ったが、そのうち 1 回は中学生と合同で地域の清掃活動に取り組んだ。中高連携清掃活動【資料 6】は今年度で 6 年目となるが、その他にも本校では、連携を視野に入れて、学校周辺の清掃活動（PTA との合同清掃）や濃尾大花火翌日の早朝清掃（地域住民・PTA・同窓会との合同清掃）、最寄り駅周辺の自転車置場の清掃などを実施している。生徒ののべ参加人数は年々増加傾向にあり、実施後の生徒の作文には感謝の言葉や引き続き参加していきたいといった言葉が上るようになってきている。

イ 事前指導の実際…**手だて A・F**

中高連携清掃活動に向けての事前指導において、自分しかできない役割が与えられるよう少人数のグループ編成（男子 3 名、女子 3 名、計 6 名）とした。清掃活動も反省会も同じ班単位とし、密な関わりの場を設定した。役割の内訳は、①班長、②ゴミ収集係、③アンケート係、④進行係、⑤書記係、⑥発表係とし、①～③は第 3 時の中高連携清掃活動での係、④～⑥は第 4 時の清掃活動反省会での係とした。

また、事前指導の際、【資料 7】のように予測される問題を考えて各自のプリントに記入させた後、グループの中で互いに発表することによって新しい気づきを得た。その後、「予想される問題に対し気を付けておくべきこと」としてまとめさせ、グループ内で共通の意識をもつようにした。その結果、【資料 8】のような対策が生徒から挙げられた。

以上のように、事前に役割分担をしたり、起こり得る課題について予想したりする活動を通して、清掃活動時には、一ヶ所に中学生が固まらないように指示を出したり、適切に時間配分も考えたりして、リーダーシップを発揮しようと努力している姿が見られた。

ウ 個人用プリントの用意…**手だて B**

第 4 時では、グループ内で各自の振り返りについて伝え合うことができるようにするための準備として、尾西高 p. 10【資料 9】のように、できたこととできなかったことに分類した個人用プリントを用意し、事前（放課中）に記入させておいた。また、単元設定の理由でも述べたように、役割意識や中学生への接し方について育てる

【資料 6 中高連携清掃活動の様子】



【資料 7 事前指導プリント】

1年6組

4班 自分係 書記

・清掃活動の前に…予想される問題

1. 清掃のつもり
・異校種にきりあげて終わらせない
・しゃべりながら進まない
2. 中学生に関係すること
・コミュニケーションをとらない
・分別してしまおう（バケツに2つ）
3. その他

・予想される問題に対し、気を付けておくべきこと

- ・中学生に対して優しく接する。
- ・最後までやる。

【資料 8 資料 7 の主な記述内容】

- 中学生に関すること
- ・中学生に対して、どのように指示を出すか考える。
 - ・中学生に対して優しく接する。
 - ・自分から積極的に話しかける。
 - ・言葉遣いに気を付ける。
 - ・中学生を安心させ、気持ちよく清掃ができるようにするため、開始前に挨拶をする。
 - ・分け隔てなく中学生に接する。
 - ・周りをよく見て気を配る。（→助け合い、中学生の立場で）
 - ・中学生も高校生も、周りと協力する。
- 清掃活動に関すること
- ・ごみの分別に気を付けるため、袋を 2 種類用意する。
 - ・清掃箇所を把握する。
 - ・時間配分を考える。
 - ・一人一人の役割を確かめながら、清掃に取り組む。

ため、項目を「自分の役割」と「中学生への働きかけ」に分けて記述させた。清掃活動そのものや役割についても真剣に実施でき、中学生への関わり方についても慣れないこともあり恥ずかしさや人見知りする部分はあったもののおおむね良好であった。しかし、それ以上の踏み込んだ反省には至ることができず、似たような反省内容となっていた。

エ グループ内で振り返りを伝え合うための工夫

…**手だてC・D・G**

第4時の授業の後半でグループとしての振り返りを発表するという目的意識をもたせた上で、各自の振り返りをグループ内で伝え合う場を設定した。グループで伝え合う前に、【資料10】のような付箋紙を用意し、ウで用いた個人用プリントを参考にし、各自でできたこと（青の付箋紙）・改善点（ピンクの付箋紙）に分類し、ひと目で分かるように工夫した。そして、グループで伝え合う際には、書記用A3プリント【資料10】を用意し、各自が付箋紙をそのプリントに貼りながら同じグループの生徒に伝えさせた。短い時間の中での発表であったが、付箋紙とプリントという教材・教具を用意したため、聞く側にとっては目と耳の両方から情報を得ることにつながり、各自の振り返りの内容が同じグループの生徒により分かりやすく伝わった。また、青の付箋紙に書かれた内容について共有する様子を見たり聞いたりする限り、【資料11】のように、第1時から第3時までの意識の高まりが感じ取れる振り返り内容が出されていた。

【資料9 反省会プリント（個人用）】

中高連携清掃活動 反省会プリント

1年6組

1. 自己の反省をしましょう。
(1) 清掃活動を通じてできたこと・できなかったことを書きましょう。

自分の役割	中学生への指示・声かけ・支援	その他
できたこと 袖袋などを各自が集めた。	集めは入れるときに 音声を付けてもらって お礼の言葉を言う。	できたこと 最初から最後まで 時間をいかに使った。
できなかったこと 広い範囲まで集め られなかった。	できなかったこと 集めるときはしか コミュニケーションを とれなかった。	できなかったこと やっていた間、中学生と バラバラだった。

(2) 事前指導での予想よりもよかったところ・よくなかったところを書きましょう。

よかったところ 最初から最後まで真面目に取り組めた。 1人1人が自分の仕事をし、	よくなかったところ 中学生と自分達が まとまらなかつた。 意見を述べた。
--	---

2. 1(1)のできなかったことについて、どのように改善したらよいか考えて書きましょう。

自分の役割を遂行するために更 に良い方法は何か。	中学生への声かけ方、言葉遣い の点で更に良い方法は何か。	その他
もっと視野を広くする。	積極的に話しかける。	話しかけられやすいような 態度で接する。

3. 他のグループの発表を聞いて、新しく気付いたことを書きましょう。

フレンドリーさを出す。
道具の扱い。

【資料10 反省会プリント（書記用）】

中高連携清掃活動 反省会プリント（書記用A3）

1年6組 ← 班 書記

自分の役割	中学生への指示・声かけ・支援	その他
場所の案内の指示。 清掃活動の要領が音声が足りず 行う場所以上の働きが足りず。 ゴミも他の人によい集めた。 最初から最後まで 真面目に取り組めた。	自分からゴミをもらって ゴミを場所にしていく。 優しく怖がらないように 話しかけることができた。 優しく声をかけることが出来た。 声をかけることの出来た。 一語一語丁寧に言葉遣いが 良かった。声をかけてあげた 良かったと思えた。	同じ場所を清掃して いた。よかったです。自分たちの 中学生、高校生が揃って清掃 かたまりようになった。いい と思う。
中学生の子にゴミを もらいました。	中学生とバラバラに ならないうちに 高校生が声をかけ、 指示をする。	

【資料11 グループ内で生徒から出た振り返り内容】

- ・ごみ係として、袋の追加や集める場所の指示など先を見て行動できた。
- ・清掃場所での自転車の止め方にみんなで気を配ることができた。
- ・中学生への声かけで、なるべく優しい言葉遣いをすることができた。
- ・自分の清掃も大事だが、全体に目を配りながら考えて活動する。
- ・自分が一つの係を担当することにより、他人任せにせず全体としての団結が生まれた。

オ 振り返りをまとめる場の設定…**手だてH**

グループで振り返り内容を共有した後、グループの代表が発表した。その際、「自分の役割遂行のために更によい方法はなにか」「中学生への接し方」「その他」に分けて、教師が黒板にまとめた【資料12】。

まとめたことを基に、個人用ワークシート【資料9】の続きに他の班の発表で参考になったところを記入するようにした。その結果、尾西高 p.11【資料13】からも分かるように、生徒たちは更なる改

【資料12 振り返り内容の全体確認】



善を模索するという意識をもつことができ、第5時の清掃活動へのステップにもなった。

(2) 平成24年度の実践と考察

ア ジュニアインターンシップ募集における意識高揚の手だての工夫…**手だてE**

6月に行われた第1時の説明会では「自分が暮らす地域の企業」ということに意識を向けさせるよう心がけた。また、地図を用意し、生徒の事業所を決める際には希望だけでなく居住地域を考慮した。本校では生徒の半数弱が就職希望のため、進路希望も配慮して7月初めに事業所を決定した。決定後、第2時の事前指導【資料14】では、ジュニアインターンシップのおおまかな流れの説明の後、各事業所別に予想される問題点の話し合いを行った。

イ 事業所との打合せ…**手だてE・F・I**

通常の高校生の生活の中では、大人社会と直接交渉する機会が極めて乏しい。また、中学校の職場体験活動の実態も出身地区によって差が大きく、前もって事業所に自ら連絡をとった経験のない生徒が多い。そこで、来年度の就職活動に備え、前年度までのやり方を改善し、生徒自らが事業所に連絡をとるよう計画した。7月中旬に、連絡のとり方や社会で通用する話し方などを進路担当の教員が指導した。その後、反復練習をさせた上で、実際に生徒に事業所へ電話をかけさせた【資料15】。その結果、【資料16】の生徒たちの感想からも分かるように、生徒たちは大変緊張して事業所に電話をかけ、大人社会と関わることの重大さを認識した。また、社会に対し厳粛な意識をもつに至り、ジュニアインターンシップに臨むよいステップにもなった。連絡をとった後、生徒は各事業所に赴き、実際のジュニアインターンシップに向けての打合せを行って、夏休みのジュニアインターンシップを実施した。

ウ 情報共有により学年全員の学びに結び付くような手だての工夫…**手だてA**

ジュニアインターンシップに参加できる生徒は20名であるので、参加している生徒としていない110名の生徒では経験の差ができてしまう。ジュニアインターンシップ後にどのような活動をして、どのような学びがあったのかを情報共有する場を、ジュニアインターンシップ報告会として2学年全体に設けた【資料17】。その際、事業所別にグループを組み役割を分担した。役割の内訳は、「司会」「事前指導（事業所との連絡・訪問打合せ）の発表」「事後指導（インターンシップノートの作成・作文・お礼状作成）の発表」「ジュニアインターンシップの活動内容の発表」とし、プレゼンテーションソフトを使用し、より分かりやすく伝わるような工夫をした。これにより、ジュニアインターンシップ参加生徒には、他者に伝えるという

【資料13 次回の清掃活動で心がけたい点】

- ・自分の役割とグループの人の役割を決めてから、清掃に取り掛かる。
- ・まず周りに気を配ってから指示を出す。
- ・時間を見ながら、効率のよい清掃にする。
- ・他人任せにせず、自分が動く。

【資料14 事前指導の様子】



【資料15 事業所への電話の様子】



【資料16 電話した後の感想】

- ・大変緊張して手に汗を握ってしまった。
- ・事前に作業内容を予想しながら電話をするので、自分なりに計画を立ててインターンシップに取り組むことができた。
- ・社会で通用する言葉遣いやマナー、礼儀などに気を付けるようになった。

【資料17 報告会の様子】



更なる学びの場を提供することができた。リハーサルを繰り返して発表に臨み、生徒の意識を高めることができた。

エ 振り返りの授業の設定…**手だてA・G・H**

昨年度の清掃活動における振り返りの授業と同様の形式で実践を行った。第1学年からの清掃活動が、第2学年の奉仕活動やジュニアインターンシップと学びの同一路線にあることを意識させ、生徒の成長の度合いを図るようにした。

第4時では、インターンシップの報告会の振り返りを行い、第6時の1年生対象の報告会につなげることを目的として反省会を開いた【資料18】。多様な意見が交換できるようにする配慮として、30人を5グループに分け、インターンシップ参加者と非参加者が1つのグループになるように編成した。さらに、インターンシップ参加者は同業種ではない事業所の生徒を組ませた。事前に役割として、「書記係」「発表係」を決め、効率よく反省会を進めることができるよう配慮した。

オ 個人用プリントの用意…**手だてB**

グループ内で各自の振り返りについて伝え合うことができるようにするための準備として、【資料19】のように、よかった点と改善すべき点に分類した個人用プリントを用意した。それぞれの生徒で役割が大きく異なっていたためか、教師が意図した以上の踏み込んだ反省に至ることができなかった。しかし、【資料20】のように、今後の学習の参考にすべき反省材料も、生徒から多く出された。

【資料20 資料19の主な記述内容】

- ・原稿用紙を極力見ずに前を見て発表ができるように反復練習するべきである。
- ・早口になってしまうので、句読点に注意して丁寧に話すことを心がける。
- ・仕事の内容をもっと細かく書き直した方がよい。
- ・スライドは、写真だけでなく、学んだことの要点も示すようにする。
- ・仕事に取り組んでいるときの心境の変化や、インターンシップで学んだことを伝えた方がよい。

カ グループ内で振り返りを伝え合うための工夫

…**手だてC・D・G**

前年度の中高連携清掃活動を振り返る授業と同様に、授業の後半でグループとしての振り返りを発表するという場を設定した。グループで伝え合う前に付箋紙を用意し、オで用いた個人用プリント

【資料19】を参考にし、各自でよかった点（青の付箋紙）・改善すべき点（ピンクの付箋紙）に分類し、ひと目で分かるように工夫した【資料21】。そして、グループで伝え合う際には、書記用A3プリント【資料21】を用意し、各自が付箋紙をそのプリントに貼りながら同じグループの生徒に伝えさ

【資料18 反省会の様子】

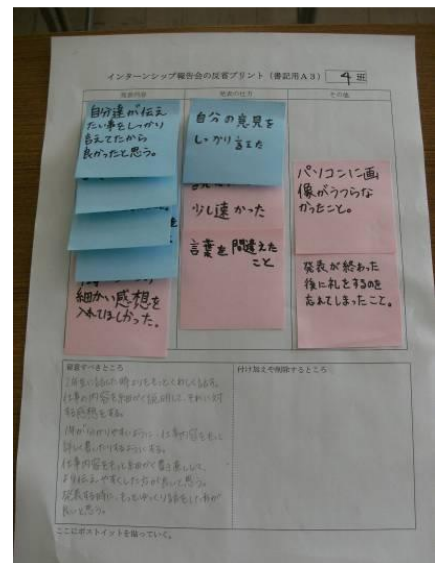


【資料19 反省会プリント（個人用）】

インターンシップ報告会 反省プリント

2年組 番氏名 係		
1. インターンシップ報告会での気持ちを発表しましょう。		
(1) インターンシップ報告会を通じてできたこと・できなかったことを書きましょう。(参加者)		
発表内容	発表の仕方	その他
できたこと 実際に体験に行くことが出来たのが良かった。その中で思ったことがいろいろあった。	できたこと 他の人とは異なるように話すことができた。	できたこと
できなかったこと 見た事ばかりな気がする。	できなかったこと 言葉がスムーズに話せなかった。緊張して言葉が詰まることがあった。	できなかったこと
(2) インターンシップ報告会を通じてよかったこと・改善すべきことを書きましょう。(非参加者)		
発表内容	発表の仕方	その他
よかったこと かたこととして会社で働くことについて知ることができた。	よかったこと いろいろな経験がインスピレーションに繋がった。	よかったこと
改善すべきこと 感想だけでなく会社のことなども少し詳しく知ることができた。	改善すべきこと もう少し話の内容が面白くなるようにしたい。	改善すべきこと
2. 1年生対象の報告会に向けて、留意すべきところや付け加え・削除すべきところを書きましょう。		
留意すべきところ 大変だ、とのことや、心境の変化など、インターンシップの感想を、事業所の人たちからのアドバイスなど。	付け加えや削除するところ どういった経緯でインターンシップに参加したのか、ということ。	

【資料21 反省会プリント（書記用）】



せた。グループ内での発表の傾向として前年度と異なった点は、付箋紙が貼られる区域がグループごとに大きく違ったということである。報告会での役割がそれぞれ異なっているのに、同様の授業でも感じ方が異なっていたことの表れであると推測する。発表の手法としては前年度と同様、プリント、付箋紙という教材・教具を用意したため、聞く側にとっては目と耳の両方から情報を得ることにつながり、各自の振り返りの内容が、同じグループの生徒に、より

【資料22 グループの代表による発表】



キ 長所を伸ばし改善点を次の活動に生かすための支援

…**手だてD・F・H**

グループで振り返り内容を共有した後、グループの代表が発表した【資料22】。個人用ワークシート(尾西高 p.12【資料20】)の続きに自分の反省をまとめるとともに、他のグループの代表による発表【資料22】で参考になった点を記入するように指示した。その結果、【資料23】からも分かるように、生徒たちは更なる改善を模索しようという意識をもつことができ、第5時以後へのステップにもつながった。

【資料23 全体で共有した後の主な生徒の感想】

- ・自分の発表に終始するのではなく、準備段階で他の発表と重複する部分を削除するなど、要点を絞って分かりやすく発表した方がよい。
- ・「働く」ことに対する責任を伝えるために、発表内容を考え直す必要がある。
- ・自分の意思を特別な場所だけでなく、日常の中でも示すことができるようにしたい。
- ・具体的に内容をまとめ、一番伝えたいことは何かを明確にすることが大切である。
- ・自分の心境や思ったこと、働くことについての具体的なことを言うとうい。
- ・今、自分が何をしたいのかをはっきり示すとよい。
- ・声量に注意して発表したい。
- ・社会に出たときに役に立つことができるように、礼儀やマナーをしっかりと身に付けたい。
- ・報告会を通して、自分だけで考えるのではなく、他の人の意見や自分の意見を話し合うことによって気付いたことがあった。そのため、分からなかったことも理解でき、意見の交換をすることの大切さを実感した。

ク ジュニアインターンシップ終了後の振り返り

…**手だてF・I**

ジュニアインターンシップは第2学年でしか行わない。

それでも、例年は参加希望者が定員の20名に満たないことが多く、教員の呼びかけが必要であった。しかし、本年度は、募集後すぐに定員に達し、意識の高まりが見られた。

実際の活動を終えた生徒たちの振り返りプリント(【資料24】尾西高 p.14【資料25】参照)には、中学校の職場体験との違いについて、「内容の濃さ」「実践的」「事業所の方と同じ勤務時間」「責任」などの言葉が記されていた。そして、「働くとは、どんなことだと考えますか」という質問に対し、「生きる」「責任」「失敗」「迷惑」「汗」「お金を稼ぐ」「人の役に立つ」「生きがい」などの言葉が記されていた。さらに、心に残ったことについて尋ねたところ、「人間関係」「コミュニケーション」「雰囲気」「気遣い」などの言葉が記されていた。以上の記述内容は、働くことについての意義の理解や大変さの実感、事業所の方々の温かさに結び付いている。その後、9月の面接週間でも、進路について真剣

【資料24 振り返りプリント】

インターンシップを終えてどんなことを学んだか振り返りましたか。この経験を自分の進路設計に生かすためよく振り返ってみよう。

1 どんな仕事を体験しましたが
利用者さんと会話、ホール巡回、食事の準備、排せつ、物入れ、2Fで利用者さんに飲み物を飲ませる、利用者さんの髪の手を乾かしヘアセット、耳掃除

2 体験や見学を振り返って、自分の行動を確認してみましょう。
事前準備・研修学習について
元々、夜更勤務に付いてはボウリングで存在することがあったので、特に準備をすることはありませんでした。
研修・指導・職場の人とのコミュニケーションについて
敬語と挨拶を学ばなければと思った。職場の方とも、利用者さんともコミュニケーションがとれました。
勤務態度について
後輩でいい所もあるよと、自分自身も一生懸命頑張りました。

3 体験した中でどんなことが心に残っていますか。
入浴の手洗いや新米の時に利用者さんを持つ上げの所です。やることばかり、在りて印象的でした。

4 自分に足りないものなどの気づきはありましたか。
利用者さんを持つ上げたりする時に、体力が必要だと思いました。利用者さんに声をかけをする時に何度も言わなければならないという事が分り、在りて積極的に話せるようになっていきました。

5 中学校の時の職場体験との違いはどんなことですか。
練習した内容が中学生の時の職場体験よりも濃かったです。

に考えた上で、担任との面談に臨む生徒が多く見られた。

6 成果と課題

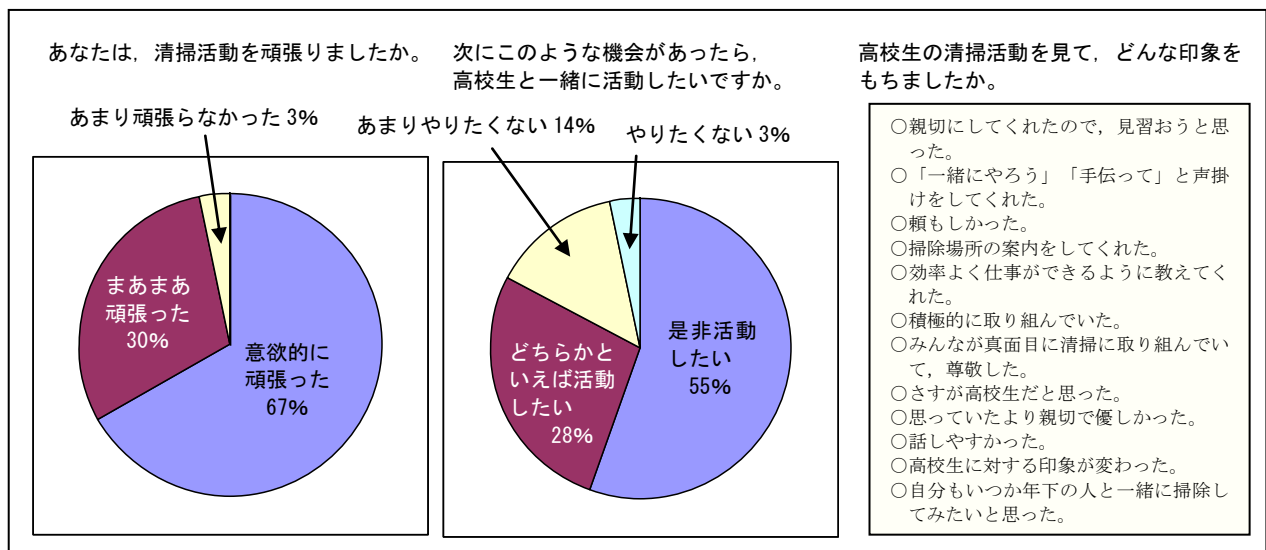
(1) 成果

ア 相手に応じた接し方を心がけたりリーダーシップを発揮したりする力

平成 23 年度実践の中高連携清掃活動では、大人しさや照れなどもあって中学生に声掛けをしていく生徒は教師が期待したよりも少なかったが、尾西高 p.9【資料 7】のプリントを用いて中学生への接し方について予測する場を設定し、尾西高 p.9【資料 8】のような対策を立てたことにより、【資料 26】のように、「中学生の立場になって接することができた」という反省が多くあった。さらに、中学生にとってアンケートには、『一緒にやろう』『手伝って』と声掛けをしてくれた「効率よく仕事ができるように教えてくれた」という回答があり、高校生を頼もしく思えた中学生が多いと考えられる【資料 27】。そのため、中学生に対応した接し方における心がけやリーダーシップを発揮する力の向上については、おおむね達成できたといえる。この実践を通して、事前に予測しておくことが円滑な活動を支え、人間関係形成能力の育成につながるという認識をもたせることができたと考ええる。

また、振り返り学習では、「個々の生徒の反省」「グループ内での発表・反省の共有」「班ごとにまと

【資料 27 中高連携清掃活動終了後アンケート（尾西第二中学校 2 年生 30 名対象）】



【資料 25 資料 24 の主な記述内容】

中学校の職場体験との違いはどんなことですか。

- ・職場体験よりも、教えてくださる内容が濃い。
- ・中学校の事業所は休憩ができたが、今回は立ちっぱなしの作業であった。
- ・職場体験では説明が多かったが、今回は仕事をする場面が多く、実践的でおもしろい。
- ・職場体験は半日日程であったが、今回は事業所の方と同じ時間に始まり、同じ時間に終わった。
- ・職場体験と比べて、責任が必要である。

働くとは、どんなことだと考えますか。

- ・生きていくために必要なことである。
- ・やっていることにとても責任がある。
- ・失敗したらお客様に迷惑がかかる。
- ・自分で汗をかきながら仕事をして、生活していくためのお金を稼ぐことである。
- ・まわりの人の役に立てることである。
- ・自分の生きがいである。

心に残ったことは何ですか。

- ・人間関係が大切である。
- ・コミュニケーションの取り方や雰囲気づくりが大切である。
- ・「仕事は楽しくやるものだよ」という言葉をいただいた。気遣いも大切である。
- ・厳しい中にも楽しさが必要である。
- ・鉄筋が想像以上に重かった。
- ・相手の方に合わせた介護の仕方に心がける必要がある。

【資料 26 中高連携清掃活動終了後の感想】

中学生に対し、具体的にどんなことを気遣いましたか。

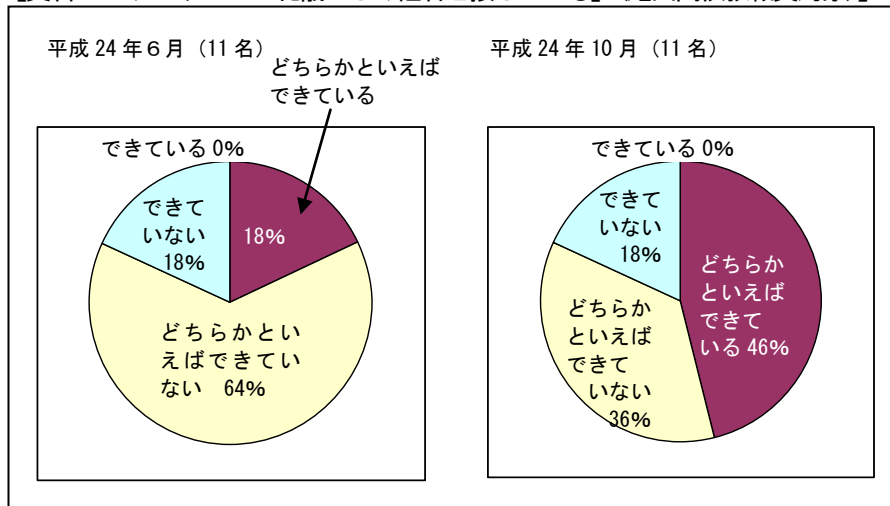
- 丁寧で優しい言葉を使った。
- なるべく、怖がらせないように優しく接した。
- いつもより意識して、積極的に話しかけた。
- コミュニケーションをとるため、一緒にごみ拾いをした。
- 中学生が中心に集めたごみも運んだ。
- なるべく明るい印象を与えるようにした。

めた反省内容の発表」「全体での反省の共有」という進め方で行い、その中にプリントや付箋紙などの教材・教具を取り入れたため、発表と気づきの機会を効率よく設けることができた。特に、「グループ内での発表・反省の共有」の場面では、限られた時間の中で能率的に各自の振り返りを伝え合うことができた。

平成 24 年度実践のジュニアインターンシップでは、ジュニアインターンシップ報告会に向けてのプレゼンテーション作成やリハーサルにおいて、教師からアドバイスが入ることはあったが、問題点を見付けて解決に導くことができた。本番の報告会では大勢の目を意識してしまったことや照れなどもあり、報告の仕方には問題が生じた。

しかし、ジュニアインターンシップを経験した生徒の感想には、「人間関係」「コミュニケーション」「雰囲気」「気遣い」などの言葉が記されていた（尾西高 p. 14

【資料 28 アンケート「礼儀正しく他者と接している」(尾西高校教職員対象)】



【資料 27】)。ジュニアインターンシップを経験していない生徒においても、振り返り内容を全体で共有した後の感想では、「意見交換をすることの大切さ」「要点を絞って明確に、具体的に話すこと」などが挙げられた（尾西高 p. 13 【資料 23】）。付箋紙を使いながら、目と耳を活用した関わり合いを通して、人間関係形成能力の大切さを実感しつつある生徒が増えていると考えられる。【資料 28】は、ジュニアインターンシップの学習の前後に調査したアンケート調査である。生徒の様子を見て、「礼儀正しく接することができるようになった」と感じている教職員が増えている。

以上の点から、ジュニアインターンシップの学習を通し、人間関係形成能力が向上しつつあると考えられる。

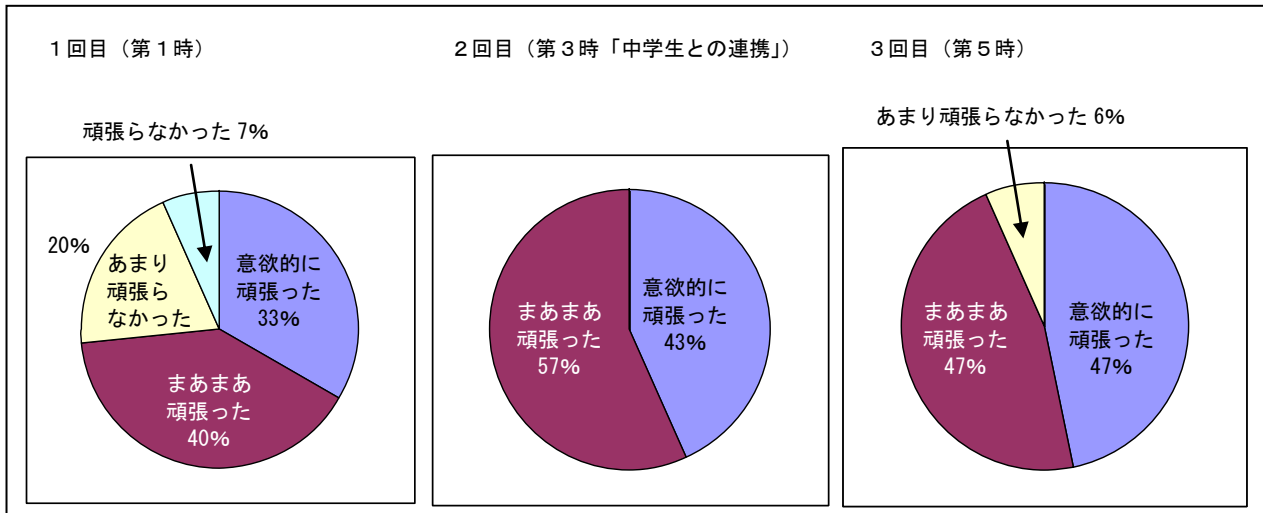
イ 自己の果たすべき役割についての認識

平成 23 年度実践の清掃活動では、3 回の校外での清掃活動実施後に、尾西高 p. 16 【資料 29】のようなアンケート調査を実施した。その結果を見る限り、校外での清掃活動を積み重ねる度に、「意欲的に頑張った」と感じる生徒が増えていた。回答理由は尾西高 p. 16 【資料 30】に示す通りであるが、中高連携清掃活動を通し、高校生としての役割を意識しながら取り組んだことが考えられる。また、個人で清掃活動の振り返りを実施するだけでなく、グループ、さらに全体で振り返る場を設定することにより、各自が客観的に振り返ることができ、第 5 時の清掃活動に向けて自分が果たすべき役割を明確にすることができたと考えられる。

さらに、3 回の校外での清掃活動を通じて、清掃をしていると、地域の方々に「ありがとう」「ご苦労様」などの声掛けをいただくことがあった。振り返りの際に、その事実を生徒に伝えたり、中学生を対象にしたアンケート（尾西高 p. 14 【資料 27】）の結果をグループに 1 枚ずつ配布したりしたため、他者から認められているという実感を味わうことができ、責任をもって自分の果たすべき役割を遂行することの大切さの理解につながったものと考えられる。

平成 24 年度実践のジュニアインターンシップでは、生徒が書いたインターンシップ振り返りプリン

【資料 29 清掃活動終了後アンケート「清掃活動を頑張りましたか」(尾西高校 1 年生 30 名対象)】



ト (尾西高 p.13 【資料 24】

尾西高 p.14 【資料 25】 参照) に、「責任」「人の役に立つ」「生きがい」などの言葉が多く記されていた。短期間の活

活動であったが、与えられた役割に対し責任をもって遂行することの大切さを実感することができたと感じる。さらに、平成 23, 24 年度のどちらの実践も、振り返り学習の際に、プリントや付箋紙を取り入れながら、「個々の生徒の反省」「グループの反省の共有」という流れで授業を進めた。個々の生徒の反省を共有し合う活動を積み重ねることにより、働くことの大切さや役割の意義についての理解が深まりつつある。【資料 31】【資料 32】のアンケートの結果を見る限り、「できている」「どちらかといえばできている」のいずれかを回答した生徒の割合が増えている。このことから、2 年間の実践を通して、キャリアプランニング能力の向上を図ることができつつあると考えられる。

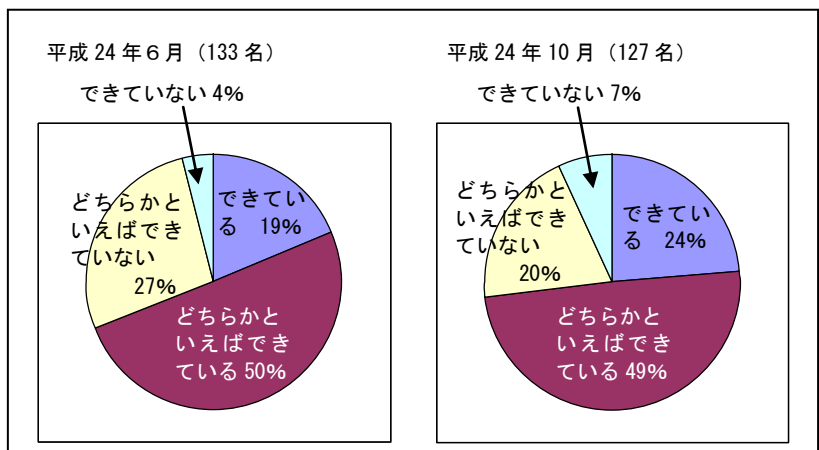
(2) 課題

- ・「中高連携清掃活動」「ジュニアインターンシップ」という単元を組

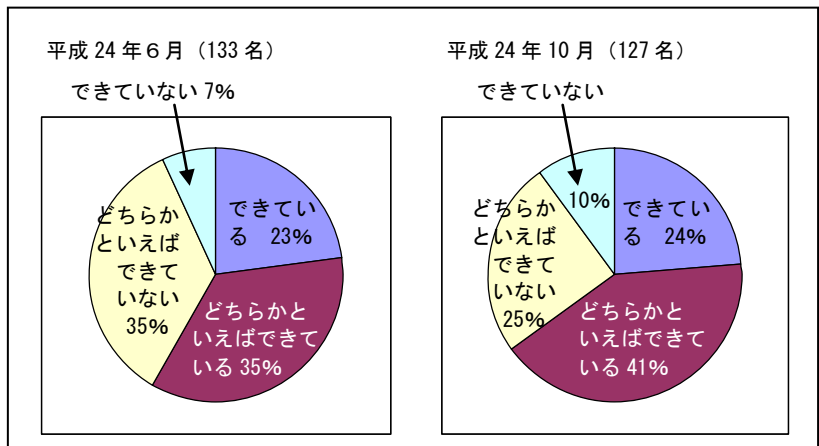
【資料 30 資料 29 における 3 回目の回答理由】

- ◎「自分だけ」ではなく、周りに気を配った行動をとることができた。
- ◎人に頼るのではなく、自分から進んで声かけや掃除ができるように努力した。
- ◎班長として積極的に具体的に指示を出すことができた。
- いつもけんかばかりしていたのに、仲よく掃除できた。
- △中学生がいなかったため、やりがいを感じず、この前よりなまけてしまった。

【資料 31 生徒アンケート「働くことの意義や役割について理解している」(尾西高校 2 年生対象)】



【資料 32 アンケート「自分の生活と将来の生き方との関連性について理解している」(尾西高校 2 年生対象)】



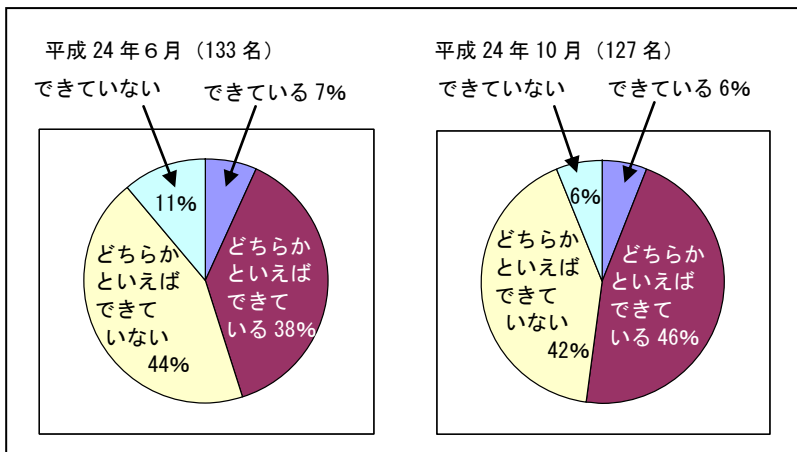
んだことから、中学生も地域住民の中に含むと捉えるならば地域との連携は強化できたと考えられる。しかし、地域の一員であるという自覚の高まりについては、尾西高 p.16【資料31】尾西高 p.16【資料32】のアンケート結果ほどの成果が感じられなかった。この体験をきっかけにして、地域の一員であるという自覚が更に高められる活動を計画していきたい。

- ・振り返り学習を充実させることにより、基礎的・汎用的能力のうち「人間関係形成・社会形成能力」「キャリアプランニング能力」だけでなく、【資料33】【資料34】のアンケート結果からも読み取れるように、「課題対応能力」の向上を図ることができたことも実感している。しかし、各教科の履修状況を考慮しながら学習を進めるとなると、振り返り学習を実施するための時間を生み出すことが難しい。そのため、LTの時間を効果的に活用したり、キャリア教育と連携させて取り組める教科を更に検討したりすることにより、振り返り学習が効果的にできる工夫をしていきたい。

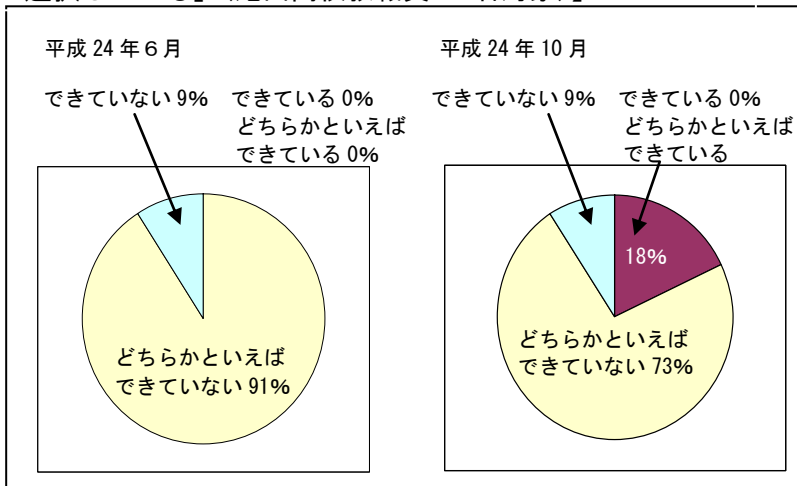
- ・振り返り学習のとき、「できなかったこと」に対して、どのように改善したらよいかを考えたのであるが、できなかった事実と改善策の間に、「なぜできなかったのか」ということについて検討する場面があったら、より話し合いが進みやすくなったと考える。

- ・人間関係形成能力に関わる点において、【資料35】のアンケート結果から読み取れるように、「他者に配慮しながら自分の考えを伝えることができる」と感じている生徒が減っているのが気になる。今後は、聞き手への伝え方、話し合いの仕方など、小中学校で身に付けておくべき手法についても視野に入れながら、コミュニケーション

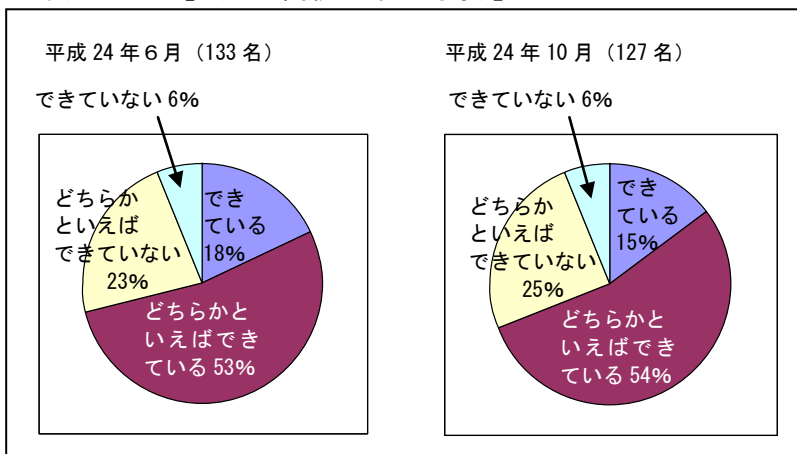
【資料33 アンケート「課題の解決に必要な情報を適切に選択している」(尾西高校2年生対象)】



【資料34 アンケート「課題の解決に必要な情報を適切に選択している」(尾西高校教職員11名対象)】



【資料35 アンケート「他者に配慮しながら、自分の考えを伝えている」(尾西高校2年生対象)】



力の向上を図る必要がある。

- ・振り返り学習のとき、他のグループの発表で参考になったことを自分のプリントに記入した後、それを伝える場があると、それを伝えられたグループにとっては「認められた」という気持ちが強くなり、自己有用感も更に高まったと考える。

7 おわりに

効果的なキャリア教育の推進のためには、インターンシップや社会体験活動など外部との連携が必要である。しかし、高等学校においては家庭と学校、地域と学校、企業と学校、他の校種の学校同士を結び付ける要素がまだ充分とは言えない。そこで、学校側・教員側が機会を設けようという意識を強くもち、活動の意味付けをしていけば、生徒にとっては貴重な学びの場となるということが今回の研究を通して分かった。特に、普通科高校では進路指導と直接関連付けたキャリア教育に主眼が置かれてしまう傾向がある。生徒が「生きる力」を身に付け社会人として自立していくためには、行事、教科、LTなど、日頃から取り組んでいる活動と関連させたキャリア教育を普通科高校でも増やしていくことが効果的であると思われる。また、この実践を通し、事業所には事業所の目的や期待する効果もあるので、学校側と事業所側が互いに連携する目的や期待する効果などをそれぞれの観点からすりあわせておく必要があることを実感した。

今後は、本研究で有効性が確認された振り返りを、他の授業や活動にも取り入れて実践を積み重ねることにより、生徒が更に自信をもって行動でき、学校の一員、地域の一員としての自覚を高めていけるようにしていきたい。

※引用・参考文献

『高等学校キャリア教育の手引き』 文部科学省 2011.11

期	1				2				3		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
1年 教科・内容	キャリアガイダンス(自己把握・基礎カドリル)	進路研究	勤労体験	基礎講座	体育大会・文化発表会	キャリアガイダンス(外部講師講話)	中高連携清掃活動	在り方生き方講話	キャリアガイダンス(進路の手引き)	外部講話	総合的な学習の時間のまとめ
	自己の進路実現に向けて必要な情報を収集し、自己把握をする。	学部・学科研究の動機付け・必要な観点を理解する。	社会の一員として責任意識向上のために協調して奉仕活動を行う。	高校生の基本知識・日本語の力・考える力の向上を目指す。	異学年交流を通じて集団における自己の在り方を考える。	外部講師の進路講話を通じて進路実現への意識を高める。	中学生との合同清掃活動を通じてリーダーシップを育成する。	内部または外部講師の講話から進路探求へとつなげる。	進路指導部作成の冊子『進路の手引き』を使用して具体的な指針を見付ける。	生徒と近い年代の同窓会の方の講話を聴き、等身大の指針を見付ける。	まとめと反省を行い、新学年へ向けての抱負を考える。

期	1				2				3		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
2年 教科・内容	オリエンテーション	キャリアガイダンス(自己把握)	キャリア教育セミナー	類型指導	体育大会・文化発表会	ジュニアインターンシップ	修学旅行事前指導	在り方生き方講話	キャリアガイダンス(外部講師講話)	外部講話	総合的な学習の時間のまとめ
	説明を聞き、充実した高校生活を送るために何が必要なのかを再確認する。	適性や進路目標から考えて類型登録を行う観点を学ぶ。	進路希望の3コースに分かれて大学・企業などを見学する。	指導を通じて、より綿密な進路計画を模索する。	異学年交流を通じて集団における自己の在り方を考える。	夏季休業中に実施した就業体験の報告を行い、働くことについて学ぶ。	集団生活の場での自己の役割を決め、学習のねらいを把握する。	内部または外部講師の講話から進路探求へとつなげる。	進学(リクルート)と就職(ハローワーク)に分かれて講話を聴く。	生徒と近い年代の同窓会の方の講話を聴き、等身大の指針を見付ける。	まとめと反省を行い、新学年へ向けての抱負を考える。

期	1				2				3		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
3年 教科・内容	オリエンテーション	自己の向上	キャリアガイダンス(説明会)	キャリアガイダンス(面接)	体育大会・文化発表会	自己の向上	レポート作成	勤労体験	総合的な学習の時間のまとめ	総合的な学習の時間のまとめ	
	学習・生活・進路の取組方についての説明を聞き、最終学年としての自覚を持つ。	就職講座・進学対策講座を通じて自己の向上を模索する。	専門・大学短大・就職希望に分かれてコース別説明会を行う。	面接アンケート作成・面接練習を通じて自己表現力を高める。	異学年交流を通じて集団における自己の在り方を考える。	健康と運動・国際理解・数学研究を通じて自己の向上を模索する。	進学就職先の学科・業種に合わせた研究レポートの作成を行う。	社会の一員として責任意識向上のために協調して奉仕活動を行う。	『進路の手引き』の作文作成を通じて3年間のキャリア教育を振り返る。	3年間のまとめと反省を行い、新生活へ向けての抱負を考える。	